



石田 好江 さん
(戸石川町)

地域も積極的に取り組んでいます

以前は、食事以外はほぼ介助が必要で、一日中自宅で生活していましたが、リハビリを受け、近所の人たちと集まってお話し会などをして、励まされて体調も良くなってきました。そのことから、近所の人と集い、支え合うことの大切さを感じ、リハビリの先生から身近な運動の場づくりを勧められ、区長や民生委員、地区住民と一緒に、「戸石川よかよかクラブ」を立ち上げました。

週に1回のクラブで、運動を続けたりしたことで、今ではすべて一人でできるようになり、毎日のように外に出かけるようになりました。今後は、地元地区だけでなく、他の地区との交流会なども開催し、地域で安心して暮らしていけるまちづくりを進めていきたいです。

個別の課題から地域の課題へ

個別事例の地域ケア会議で検討して、地域の支援が必要と判断された場合、地区の区長や民生委員、地域住民などの身近な支援者で共に取り組んで支えていきます。今回は、その事例について紹介します。

事例：Aさん(83歳・女性・独り暮らし)の場合

最近、特に認知症がひどくなり、物盗られ妄想があり、仲良くしていた人に「あなたが盗ったでしょう」と疑いをかける。近所の人々が近づきにくくなり、孤立している、鍋焦がしが頻繁にあり、火の元が心配な状態。

①地域ケア個別会議の開催

区長、民生委員、近所の人、病院看護師、医院職員、ヘルパー、在宅訪問看護師、担当ケアマネジャー、地域包括支援センター職員、アドバイザー(認知症介護指導者)などで話し合い、課題や支援の内容について検討した中で、認知症を理解してもらうための地域の支援が必要と判断し、区長や民生委員、身近な支援者で取り組むこととなりました。



②講座の企画・準備

関係者で役割分担をして、企画・準備などを行いました。今回は、地域の人たちが率先して行動していました。

- 区長・民生委員 → 日程調整、チラシづくり
対象把握、会場確保
参加勧奨
- 地域の支援者 → 参加の呼びかけ
- 地域包括支援センター → 講師依頼、資料準備



③認知症サポーター養成講座開催

地区住民を対象に、認知症の人や家族の応援者として地域で見守りなどの支援の輪を広げるために、講座を開催しました。

講師から、認知症の症状や特徴、対応の仕方、認知症の人の気持ちの理解などについて説明がありました。その後のグループワークでは、Aさんの状態に合った支援方法を話し合い、日中の声掛けなど具体的な活動についても考えました。



高齢者が独り暮らしや認知症になっても、安心して暮らしていけるまちづくりに向けて、今回、地域と行政が一緒になって取り組んでいる事例について、紹介します。

■お問い合わせ 福祉課高齢者支援班 区内線2586

「地域ケア会議」とは
高齢者がその人らしく自立して生涯暮らし続けることができるまち「地域包括ケアシステム」の実現に向けた重要な手法の1つとして、平成27年度から介護保険法に位置づけられている会議です。市では、「市全域」「小・中学校区」「個別事例」の3階層の地域ケア会議に分かれており、相互に課題や成功事例を共有できる体制づくりとなっています。

個別事例をもとに検討
平成28年1月までに、個別事例の地域ケア会議を12回(22事例)開催しました。区長や民生委員、サービス事業者や専門職アドバイザーなどで話し合い、個別事例のよりよい支援を検討するとともに、

地域の強みや社会資源、成功事例、地域課題を把握することができ、これらの把握した情報については、小・中学校単位の地域ケア会議で情報共有し、地域づくりや資源開発などの検討を行います。また市の施策として取り組みが必要な内容については、市全域の地域ケア会議へと話し合いの場を進めていきます。

地域ケア会議の構成

- 実施づくり
 - 市全域の地域ケア会議
 - ・市全域で実施する新たな事業づくり
 - ・介護保険事業計画への反映
 - 小・中学校単位の地域ケア会議
 - ・地域の実情に合った、新たな社会資源づくり
 - ・地域の支援ネットワークづくり
 - 個別事例の地域ケア会議
 - ・個別事例のよりよい支援の検討
 - ・地域の強みや解決すべき課題を発見
 - ・情報共有し、地域や介護支援専門員への支援
- 共有
 - まちづくり
 - 地域課題発見